

# 広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業の今後の展開に向けて — 市町職員研修とモデル市町支援の実施を通して —

## 【調査研究者】

広島県立生涯学習センター 所長 田崎 志緒  
振興課長 宮 香緒利  
社会教育主事 武原 智明  
社会教育主事 齋藤 裕磨  
社会教育主事 中尾 公寛  
主任 池田 準  
主事 川崎 明子

## 【調査研究・助言者】

広島県立生涯学習センター 生涯学習推進マネージャー 山川 肖美  
(広島修道大学 教授)

## 調査研究の要約

本報告書は、当センターが令和元年度より1年間の試行を経て実施してきた、広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業について、市町職員研修やモデル市町支援の成果と課題について整理・分析し、今後の事業展開に向けてまとめたものである。

市町職員研修については、この3年間で県内の多くの市町の職員等が受講し、支援事業の趣旨や目的、企画立案の方法について一定の理解や周知を行うことができた。今後は、モデル市町への伴走型支援に重点を置きつつ、より実践に結び付く形での研修も併せて実施していく。

モデル市町支援については、この3年間は感染症対策等の影響もあり、計画通りに進まなかった面もあるが、学びを通じた地域課題解決に向けた伴走型支援を行うことができた。今後は、プロジェクトの企画・立案段階から支援し、市町や公民館等の社会教育施設が予算計上や措置も含めてスムーズにプロジェクトを展開できるように配慮していく。また、プロジェクトへ参画した住民のその後の意識の変容や活動についてもより丁寧に調査・分析し、本支援事業が学びを通じた地域づくりにどのように貢献しているのか、その社会的意義を検証していく。

## 目次

|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| はじめに                                 | 1  |
| I 事業立ち上げの経緯                          | 2  |
| II 広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業の趣旨と特徴 | 3  |
| III 広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業の実際   | 4  |
| IV 事業の検証の視点                          | 11 |
| V 事業の検証                              | 11 |
| VI 今後に向けて                            | 13 |
| おわりに                                 | 14 |

## はじめに

少子高齢化・人口減少の進展など社会環境の大きな変化を受けて、生涯学習や社会教育における学習成果を「地域づくり」の実践につなげていくことに対する社会の期待が高まっている。

広島県内においても、公民館や公民館類似施設等において、これまでの在り方を見直し、学びの成果を地域づくりに積極的に活用しようとする様々な取組が各地で進んできている。このような動きは、今後、生涯学習や社会教育の成果が、地域で活躍する多様な人材の発掘につながり、「学び」を地域課題の解決や地域づくりにつなげていくことにより、人々

の暮らしと社会の持続に大きく貢献することができる可能性を有していることを示唆している。その可能性を顕在化させ、活発な取組が展開されるよう、今後の生涯学習・社会教育に期待される施策や方向性を明らかにしておくことが求められる。

本報告書では、当センターが令和元年度より1年間の試行を経て実施してきた、広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業について、市町職員研修やモデル市町支援の成果と課題について整理・分析し、今後の事業展開に向けて検討する。

## I 事業立ち上げの経緯

### 1 学びを通じた人づくり・地域づくり支援の必要性

平成18年12月に教育基本法が一部改正され、生涯学習の理念については第3条において、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と示された。

また、生涯学習の重要性については、平成20年中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」において、自立した個人の育成や自立したコミュニティ（地域社会）の形成の要請や持続可能な社会の構築の要請について示されている。

さらに、平成30年中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」では、社会教育は個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割を持つことや学びと活動が好循環する中で、社会教育を基盤とした人づくり、つながりづくり、地域づくりの重要性が示されている。

これらのことから、当センターの運営方針にもある、活力ある人づくりと人を活かす社会づくりを目指すためには、複数年を見通した市町への継続的な支援が必要であると考えた。

### 2 生涯学習センターにおける研修を通じた人づくり・地域づくり支援としての「広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業」の始動

当センターでは、これまでに地域課題対応研修支援（訪問型研修）として、市町の社会教育主事や研修

担当職員等と連携・協働して、市町が人材育成のために実施する研修の企画・運営を総合的に支援してきた。ただ、研修の企画・運営に係る支援は、その内容や対象者が限定されていることが多く、その支援も短期的なものになる特徴がある。また、その年ごとに市町のニーズも変わり、継続的な支援にならないこともある。さらに、ここ2年間は感染症対策等の影響により、十分な支援ができていない現状もあった。

地域課題対応研修支援のこういった課題も踏まえつつ、当センターでは、県民の生涯学習活動を支援するために、調査研究、情報提供、指導者研修、モデル事業の4つに取り組んできている。

それらの中でも、表1は当センターが実施している指導者研修について示したものである。

表1 当センターにおける指導者研修の実施状況（R3）

| 研修名                |   | 回   | 実施状況          |
|--------------------|---|-----|---------------|
| 市町職員等研修            |   |     |               |
| 生涯学習振興関係職員等研修      | 基礎研修                                    | 全1回 | オンライン         |
|                    | 学習プログラム研修                               | 全2回 |               |
|                    | 広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」（ひろプロ）コーディネーター研修 |     |               |
|                    | 社会教育主事等研修（社会教育経営編）（生涯学習支援編）             | 全2回 |               |
|                    | 地域課題対応研修支援（訪問型研修）                       |     | オンライン         |
|                    | 広島県公民館等職員研修会（広島県公民館連合会との共催）             | 全2回 | オンライン         |
|                    | 広島県社会教育委員研修会（広島県社会教育委員連絡協議会との共催）        | 全1回 | オンライン（オンデマンド） |
| ボランティア・コーディネーター等研修 |   |     |               |
| 活動地域推進事業協働         | 地域と学校の連携・協働体制構築研修会                      | 全1回 | オンライン         |
|                    | 協働活動支援員・協働活動サポーター等研修会                   | 全2回 | オンライン         |
|                    | 「『親の力』をまなびあう学習プログラム」ファシリテーターステップアップ研修   | 全3回 | オンライン         |
| ネットワークづくり          |   |     |               |
|                    | 広島県生涯学習研究実践交流会（日本生涯学習学会との共催）            | 全1回 | オンライン         |

指導者研修では、各研修のねらいに沿って基本から応用まで幅広く学ぶことができる。一方で、市町担当課や公民館等の社会教育施設が扱う地域課題は多岐に渡る。

これらの取組を踏まえ、社会の要請に対応した先導的なモデル事業と事業を通じた人材育成に併せて取り組むこととし、令和元年度より広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業を立ち上げ、指導者研修とモデル市町支援を並行して行ってきている。

この支援事業は、公民館等を拠点とした学びを通じた地域課題解決の活動を促進できるよう支援しており、令和元年度より1年間の試行を経て令和3年度で3年目を迎えた。

そこで、次年度以降の支援事業の取組につなげていくため、3年間の取組の成果と課題を整理することとした。

広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業の特徴であるが、学びを通じた市町の地域課題解決に向けたプロジェクトの推進を当センターの社会教育主事等が複数年にわたり継続的に支援していくようにしている。また、その支援は市町の現状や意向を十分に考慮し、且つ、市町の職員等が主体的・協働的な事業を展開していくことを支援する伴走型支援をしていくこととしている。

## II 広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業の趣旨・考え方と手法

### 1 広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業の趣旨

広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業の推進に当たっては、前述の経緯を踏まえて、その趣旨を次のとおり整理した。

- 地域住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点である公民館等（公民館及び公民館類似施設（コミュニティセンター）等の社会教育関係施設）が、行政（首長部局）や大学・企業・NPO、地域の関係機関・団体等と連携・協働して地域課題に対応した学習機会を提供し、学びを通じた地域づくりの活動を促進するための拠点として重要な役割を果たせるよう支援する。
- 住民の主体的・協働的な学びを通じた地域づくりの活動を促進する事業モデルを実証開発し、それぞれの公民館等での活動をコーディネートできる人材（公民館職員等）の育成を図る。
- 上記事業の構築に当たっては、県及び市町の社会教育主事とその役割を発揮し、専門性（有用性）を生かす仕組みを取り入れる。

つまり、本事業では公民館職員等の人材育成を通じて、地域住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点である公民館等において、多様な主体と連携・協働して地域課題に対応した学習機会を提供し、学びを通じた地域課題解決の活動を促進するための拠点として、重要な役割を果たせるよう支援していくものである。

### 2 広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」における支援の考え方

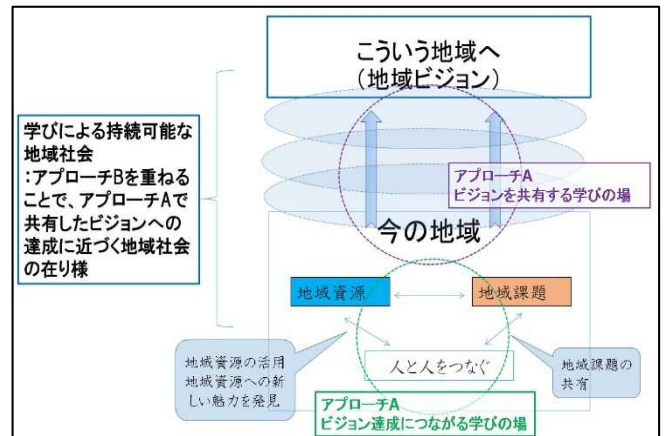
山川は、広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業における公民館職員等社会教育・生涯学習支援者が果たすべき共通の使命は、学びによる支援であり、学びに対する支援であると述べている。

「学びによる支援」は、学習プログラム開発がその柱となると考えられる。一方、「学びに対する支援」は、学ぶ意欲がある人や学ぶ必要性を感じている人、学び続けている人に対する支援が柱となる。

「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」は、これら学びによる支援と学びに対する支援の両方を包摂し、地域ベースで展開されるものと捉えているため、「プログラム」（学習プログラム）という表現ではなく「プロジェクト」（学習プロジェクト）という表現としている。

山川は、学びによる持続可能な地域社会の実現に向けたプロジェクトを展開について、そのアプローチの方法を相互に関連する可能性のある2つに大別している。

図1 「学びから始まる地域づくり」における2つのアプローチ（※文末脚注）



アプローチAは、地域を知り、地域の未来像を描くための学びの場づくりである。例えば、地域の未来を考えたり共有したりするワークショップ、そうしたワークショップに基づいてプロジェクトを提案

する講座、その地域の諸計画や行動計画を立案していくための講座、市町全体の方向性を総合計画・総合戦略等を通して理解した上で当該地域の未来を構想するワークショップ等、様々なものが想定できる。

一方、アプローチBは、地域の未来像（地域ビジョン）を見据えつつ人と人がつながり、地域環境を生かして地域課題を解決するための学びの場づくりである。これは、地域の課題の解決をイメージしつつ、地域資源を磨く学習プログラムとも言える。地域にはそれぞれに抱えている課題があり、それを地域住民等で共有し、地域の資源（ヒト・コト・モノ）を生かしながら解決していく講座等が想定される。

広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業の推進にあたっては、この考え方をもとに、地域のニーズや実情に応じて、アプローチの方法を柔軟に使い分けながら、支援していく。

### 3 広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業の主な取組

#### (1) 市町職員等研修の実施

広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業の趣旨や概要について、県内23市町の生涯学習・社会教育行政担当者や公民館等の職員等へ幅広く周知するとともに、プロジェクトや事業の企画・立案の能力をはじめ、調整役や運営を担う公民館等の職員や市町担当者のコーディネート能力の向上を図るために、広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」コーディネーター研修を令和元年度（試行期）より毎年度実施している。

#### (2) モデル市町への伴走型支援

モデル市町については、毎年度4月に2市町を選定した。モデル市町には3年間のプロジェクトの計画を立案してもらいが、当センターによる支援は原則2年間とし、モデル市町においては、3年目以降は、当センターの支援がなくてもプロジェクトの推進に向けて自走できるよう、求めに応じて助言を行う形とした。

なお、モデル市町への支援に当たっては、市町や拠点となる公民館等の施設の職員と十分に連携を図り、長期的な視野でプロジェクトのスムーズな展開が図れるよう、十分に留意し支援を行った。また、前章でも述べているように、地域づくりにつながる学びの場づくりへの支援が重要であると考えており、講師の選定やワークショップの展開の協議、また、学びの場に必要となる情報収集等、共に案を出し合

いながら検討していく方式の伴走型支援になるよう留意した。

## Ⅲ 広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業の実際

ここからは、市町職員等研修とモデル市町支援の実際について述べる。

### 1 市町職員等研修

#### (1) 研修のねらい等

公民館等職員の学びから始まる地域づくりのためのコーディネート力の向上を図ることを主な目的に実施し、次の3点を修得していただきたい主な能力として定めた。

- ・学びから始まる地域づくりに関わる新しい知識や考え方を得ることができる。
- ・地域の未来を考えながら、地域の現状や課題、資源を分析し、プロジェクト案を作成することができる。
- ・プロジェクト案を交流し、評価のポイントに基づいた点検や助言ができる。

#### (2) 研修の日程・受講者数等

表2は令和元年度（試行期）から令和3年度にかけて実施した研修の日程等について示したものである。

表2 市町職員研修の日程及び受講者数

| 項目            | 概要       |
|---------------|----------|
| 令和元年度（試行・各1回） |          |
| 日程            | 2日間（2会場） |
| 方法            | 集合・対面研修  |
| 受講者数          | 87名      |
| 令和2年度（全2回）    |          |
| 日程            | 2日間      |
| 方法            | オンライン研修  |
| 受講者数          | 41名      |
| 令和3年度（全2回）    |          |
| 日程            | 2日間      |
| 方法            | オンライン研修  |
| 受講者数          | 25名      |

#### (3) 研修の内容と構成

##### ア 研修の全体構成

表3は研修の主な内容や構成について示したものである。

表3 研修全体の構成（令和3年度）

| 項目     | 概要   |
|--------|--|
| 第1回    |  |
| 講義     | 学びから始まる地域づくり<br>【講師】<br>広島修道大学人文学部 教授 山川 肖美  |
| 説明事例発表 | 広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業の概要<br>【事例発表者】<br>東広島市教育委員会生涯学習課<br>課長補佐兼社会教育主事 福永 崇志<br>世羅町小国自治センター<br>センター長 風呂 久美 |
| 演習     | プロジェクト案の検討・交流  |
| 第2回    |  |
| 演習     | プロジェクト案の検討   |
| 講義     | 相互評価のポイント<br>【講師】<br>広島修道大学人文学部 教授 山川 肖美   |
| 演習・発表  | プロジェクト案の検討・発表  |
| 講評     | プロジェクト案の実現に向けて<br>【講師】<br>広島修道大学人文学部 教授 山川 肖美  |

内容や構成の詳細については、研修当日の様子や成果物、振り返りアンケート等を参考に毎年見直しを行い、改善を図った。特に振り返りアンケートについては、身に付けさせたい能力等の表現について、試行期の1年目は抽象的な表現であったため、2年目以降は受講者が具体的なイメージをもつことができるように内容を改めた。

改善内容を踏まえ、令和3年度に実施した研修の構成や内容を示す。

## イ 講義 学びから始まる地域づくり

【講師】

広島修道大学人文学部 教授 山川 肖美

研修のはじめには、広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」に関わって、必要性和要素を一緒に考えることをテーマに講義を行った。

資料1 学びから始まる地域づくりについての講義の様子



講義では「学習活動や学ぶ場があることの意義」「学びと地域づくりの関係」「本プロジェクトの必要性」の三つを中心に講話があった。また、地域のありたい姿やあるべき姿といった未来を起点にして、今何をすべきかを考える「バックキャストिंग

（ゴール）思考」によるプロジェクトの企画・立案方法についても説明された。さらに、プロジェクトの具体的なイメージをつかんでもらえるよう、県内外の住民の学びと地域づくりを関連させた実践事例も紹介された。

## ウ 説明 広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業の概要

【講師】

広島県立生涯学習センター 社会教育主事

広島版「学びから始まる地域づくり」プロジェクトの概要や企画シートの作り方について、当センターが作成した「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』コーディネーターハンドブック」に沿って説明を行った。

資料2 支援事業の概要について説明を行っている様子



本事業は、地域住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点である公民館等が、学びを通じた地域課題解決の活動を推進するための拠点として重要な役割を果たせるよう支援するものである。住民の主体的な学びを通じた地域づくりの推進に向けて、地域の未来を共有するための学びの場づくりや、家庭教育支援、地域学校協働活動、防災・減災の仕組みづくりなど、様々な地域課題の解決と学びをつなげていくという趣旨について説明した。

次に企画シートの活用について説明した。企画シートは地域の現状や課題を踏まえて、目指す方向性を整理し、学びを通じた地域づくりのための取組や評価指標等を体系的に整理することができる。

企画シートの作り方については、受講者が事前課題で、ある程度作成を行っているものの、改めて構成や内容の具体例を示しながら説明を行った。

## エ 事例発表 モデル市町におけるこれまでの取組

各市町の受講者にとっては、プロジェクトの具体的な展開例やその成果や課題に関わる情報は、事業を展開する上で大変参考となるため、モデル市町として2年間の取組を終えた東広島市と世羅町の担当者による事例発表の場を設けた。

## 【事例発表者】

東広島市教育委員会生涯学習課

課長補佐兼社会教育主事 福永 崇志

世羅町小国自治センター

センター長 風呂 久美

東広島市からは福富地区を中心に取り組んだ「東広島100歳大学（仮称）IN福富プロジェクト」について発表があった。

このプロジェクトは、人口の減少や高齢化が進む中で、地域センターを拠点とした高齢者対象講座（東広島100歳大学（仮称））を展開し、人生100年時代を生き抜くための基礎づくりや地域の絆づくり、そして高齢者の学びの支援を通して学びの循環づくりを提供したものである。

プロジェクトの推進に当たっては、3つの地域センターとプロジェクトの主管となる生涯学習支援センターでプロジェクトチームを構成するとともに、市役所（市長部局）や教育委員会（所管課）が求め応じて指導・助言を行うとった体制を整備された。

その後、各地域センターでの講座の開催の他、道の駅を会場にして、人生100年時代をテーマにした講演会の開催や学びから始まる地域づくりをテーマに懇談会やワークショップを開催された。

プロジェクトに取り組んだことによる成果としては、参画者が学び続けることの重要性に気付くことができたことや、福富地区以外の地域へプロジェクトとの意義を周知し、そのノウハウを提供することができたことを挙げている。

一方、課題としては、住民の中には参画したい意欲はあっても、地域センターまで出向くことができなかった方が多くいたことや、参画者が百歳体操の参加者に固定されてしまう傾向があったことを挙げている。

今後は、より多くの方が参画できる学びの場を提供していき、人生100年時代を生き抜きながら地域活動へ参画しようとする機運を醸成していきたいとしている。

世羅町小国地区からは、「おぐに丸も応援！地域づくりビジョン発！小国地区活性化プロジェクト」と題して地域づくりビジョンの策定に向けて取り組んだ事例について発表があった。

小国地区には、既存の地域ビジョンが存在していたが、策定の時期や経緯が不明で住民への周知もされていない状況であった。少子高齢化が進む中、地域住民の意見を反映させた地域ビジョンを立てることは急務となっていた。そこで、小国地区の活性化

につなげるために、より多くの地域住民の意見を反映させた地域づくりビジョンを策定し、講師を招聘してワークショップを開催された。

また、併せて小学生以上の全地域住民に対してアンケート調査も実施され、小国地区の未来を担う子供たちやワークショップに参加できない地域住民の思いや願いも把握するように配慮してプロジェクトを展開された。

最終的には、新しい「小国地区地域づくりビジョン」を策定し、全住民に対して公表、配付を行い、今後はビジョンに基づいた事業を展開していく予定とのことである。

プロジェクトに取り組んだことによる成果としては、小学生以上の全住民を対象としたアンケートを実施したことで、住民のニーズに沿った活動を意識するようになったこと、地域リーダーになろうとする声やなり得る人材の発掘につながったこと等を挙げている。

一方、課題としては、プロジェクトが感染症対策等で度々中断し、対面で検討することが難しい時期があり、住民同士の十分な意見交流の場が持てなかったことを挙げている。

今後は、地域リーダーを増やししながら、地域づくりビジョンに沿った事業により多くの住民が参画できるよう、魅力のある企画を立案していくとのことであった。

資料3 モデル市町の取組を発表している様子



## オ プロジェクト案の検討

### 【進行】

広島県立生涯学習センター 社会教育主事

はじめに、次の表4に沿って、プロジェクト案を検討する際のポイントや留意事項について、企画シートの項目に沿って、説明を行った。

表4 企画シート記入の際の留意点

| 企画シートの項目 | 留意点                                  |
|----------|--------------------------------------|
| プロジェクト名  | ・大まかにどのようなプロジェクトであるか、キーワード的に入れる。     |
| 地域の現状・課題 | ・プロジェクトに係る地域の現状や課題を整理する。             |
| 地域の資源    | ・プロジェクトで活用できそうな、地域のヒトやモノ、カネについて整理する。 |

|                     |  |
|---------------------|--|
| 目的（課題解決の方向性・地域の将来像） | <ul style="list-style-type: none"> <li>どのような視点から地域課題を解決したいのか、目的を描く。</li> <li>SDGsの視点も入れる。</li> </ul> |
| 取組のポイント             | <ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトの特徴やウリとなる事項を整理する。</li> </ul>                            |
| 成果指標                | <ul style="list-style-type: none"> <li>目的の達成度や波及効果を検証するための指標を整理する。</li> </ul>                        |
| 実施体制                | <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な団体と連携・協働する視点から体制を考える。</li> </ul>                           |
| 運営財源・活動資金           | <ul style="list-style-type: none"> <li>助成金や補助金の活用も含めて、プロジェクト推進のための経費を整理する。</li> </ul>                |
| 取組の概要               | <ul style="list-style-type: none"> <li>向こう3年間を見据えて、取組内容を整理する。</li> </ul>                             |
| 達成目標                | <ul style="list-style-type: none"> <li>年度ごとの達成目標を設定し、成果と課題を次年度へつなげる。</li> </ul>                      |
| 取組の発展・継続・関連         | <ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトが他への発展性、継続性、関連性がないか想定されるものを整理する。</li> </ul>             |

|   |                                       |
|---|---------------------------------------|
| ⑤ | 取組には、既存の事業や実績を活かすことができるか。             |
| ⑥ | 取組には余白や発展可能性があるか。                     |
| ⑦ | 多様な主体から成るチームで取り組むことが明白か。              |
| ⑧ | 主体的・協働的な参加を促す（参加したくなる）内容になっているか。      |
| ⑨ | 3年間で一定の成果が見込まれるか。                     |
| ⑩ | 毎年度のプロセスは目的を達成するにあたり、適切か。             |
| ⑪ | 成果は、アウトカムを志向しているか。                    |
| ⑫ | 資金調達計画は適切で現実的かつ持続的か。                  |
| ⑬ | 取組を通じてオープンなプラットフォームと小さなコミュニティが生まれそうか。 |
| ⑭ | 取組のプロセスと成果をPRする仕掛けがあるか。               |
| ⑮ | ウィズコロナやポストコロナを見据えた知恵や工夫があるか。          |

※各項目は4段階で評価

次に、受講者は事前課題で地域の現状や資源等について整理した分析シート等をもとに、個人でプロジェクト案の検討を行った。

その後、個人で検討したプロジェクト案を画面共有したりカメラ越しに写したりしながら交流し、グループごとに検討したりするプロジェクト案を選定した。

なお、プロジェクト案の内容が実践につながるよう、同じ市町の受講者ができるだけ同じグループになるように編成し、企画書を検討してもらった。

資料4 プロジェクト案を検討している様子



## カ 講義「自己点検・相互点検の観点」

【講師】

広島修道大学人文学部 教授 山川 肖美

受講者が作成した企画シートを交流する前に、相互評価をする際のポイントについて、講義を行った。

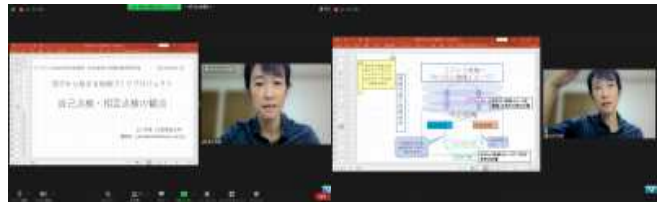
表5は、山川が作成した相互評価のポイントについて、示したものである。

表5 相互評価のポイント（チェックシートより）

|   | 自己点検・相互点検のポイント              |
|---|-----------------------------|
| ① | 地域の現状・課題が根拠をもつて的確に記述されているか。 |
| ② | 目的は、地域の目指すところと一致しているか。      |
| ③ | 取組の概要は、目的の達成に資するものか。        |
| ④ | 取組のポイントは、わかりやすく記述されているか。    |

公民館等を拠点とした学びから始まる地域づくりの基本的な考え方には、なりたい地域イメージを創造・共有する場としての「アプローチA」と、なりたい地域イメージにつながる学びの場としての「アプローチB」があり、そのことについて、県内外の実践事例も踏まえて説明があった。

資料5 自己点検・相互点検の観点を説明する講師の様子



また、企画シートを相互評価する際に活用するチェックシートの項目について説明を受け、受講者はそれぞれの項目ごとの具体的な助言の仕方について、イメージを共有することができた。

## キ プロジェクト案の発表

【進行】

広島県立生涯学習センター 社会教育主事

講義で学んだ相互評価のポイントとチェックシートを参考にして、企画シート（プロジェクト案）の相互評価をZoomのブレイクアウトセッション機能を活用してグループごとに行った。なお、グループ分けについては、可能な限り同一市町の受講者が同じになるように配慮した。

受講者は、3～4名のグループに分かれ、企画シートを画面共有し、「地域の現状・課題が根拠をもつて的確に記述されているか」「目的は、地域の目指すところと一致しているか」「取組の概要は、目的の達成

に資するものであるか」といった項目に沿って相互評価を行った。

表6は受講者がグループごとに演習で実際に企画・立案したプロジェクト名の一覧である。

表6 受講者が演習で企画立案したプロジェクト名

|   | プロジェクト名                |
|---|------------------------|
| A | 地域のじいじばあばと子育てプロジェクト    |
| B | 高齢化率51%つながりを大切にする地域づくり |
| C | 地域みんなにとどくウェブプロジェクト     |
| D | ものづくりの町防災プロジェクト        |
| E | 地域と防災活動-いのちを守る-        |
| F | 子育てまちぐるみプロジェクト         |
| G | 新規農家による農地復活プロジェクト      |

※A～Gはグループ名

資料6 プロジェクト案の発表をしている様子



## ク プロジェクト案の講評

【講師】

広島修道大学人文学部 教授 山川 肖美

グループごとに選定した企画シートを受講者がメインルームで画面共有をして発表し、それぞれについて講師が講評を行った。

講評では、企画シートの内容に関連のある県内外の事例も踏まえて助言をいただいたことで、より具体的に実践に向けた改善点やポイントを分析し捉えることができた。

資料7 プロジェクトの実現に向けて講評を行っている様子



## 2 モデル市町への伴走型支援

### (1) モデル市町の選定と指定

モデル市町の選定に当たっては、事前に市町の担当課や公民館等を訪問して実情やニーズをヒアリングした。その後、体制等も含めてモデル市町を選定した。

なお、モデル市町は年間あたり2市町とし、当センターにおいては市町ごとに担当社会教育主事等を

充て、原則として2年間にわたって伴走型支援を行ってきた。

本論文では、令和元年度から支援した2市町について述べる。

表7は、年度ごとのモデル市町を示したものである。

表7 モデル市町の一覧

| R1          | R2            | R3          | R4 | R5 |
|-------------|---------------|-------------|----|----|
| 東広島市<br>世羅町 | →             |             |    |    |
|             | (竹原市)<br>北広島町 | 竹原市<br>北広島町 | →  |    |

※R2のモデル市町(竹原市・北広島町)については、感染症対策により事業実施が困難であったため、R3を1年目とした。

なお、プロジェクトの推進に係る経費については、基本的に市町や公民館等における経費で負担してもらうことを原則とするが、プロジェクト推進に係る研修等で講師を招聘するための報償費、旅費を一部当センターで負担する形として予算措置をした。

### (3) モデル市町における取組の実際

#### ア 東広島市

##### ① プロジェクトの概要

図2は、東広島市の担当者が3年間を見据えて、プロジェクトの内容を企画シートに整理したものである。

図2 プロジェクトの内容を整理した企画シート(東広島市)

東広島市福富町では、人口に対する高齢化率が41.8%と高齢化が著しく進んでおり、人口についても移住者はいるものの過疎化が進んでいる。また、高齢者の多くは、長寿社会に備えて必要とされる情報収集や地域づくりに関心が低い。そのため、高齢者が楽しく生きていくための「生きがいづくり」や「健康づくり」等を通して、高齢者の自立と地域人



材としての参画等の仕組みづくりを行う必要があった。

このような課題を解決していくため、地域住民の最も身近な学びと交流の場である「地域センター」等を拠点とし、高齢者が元気で賢く人生100年時代を生き抜くための基礎づくりとして、体系的に「老いの基礎・基本」を学ぶ機会を提供することや、高齢者の主体的な学びの支援や地域の人材として地域参画、社会貢献していこうとする意欲を醸成していくことを通して、「学びの循環づくり」を構築することを目的として企画された。

## ②学びの場の実際（抜粋）

表8は、東広島市で開催した学びの場の概要を示したものである。

表8 東広島市における学びの場の例

|     |  |
|-----|--|
| 日時  | 令和2年11月13日（金）13:00～16:30   |
| 場所  | 道の駅 湖畔の里福富   |
| 参加者 | 約80名（福富町にお住まいの方・関係者）<br>※その他、福富町に関心のある方、福富町を応援したい方などを含む  |
| 講師  | 新居浜市生涯学習大学学長（兼）<br>新居浜市生涯学習センター 所長 関 福生  |
| 目的  | 人生100年時代を見据え、高齢者が賢く元気に人生100年を生き抜くための「高齢者の学び」の必要性や意義等について、実証データ・実践事例を交えながら講演していただくことで、高齢者の学びに対する市民の関心・意欲を高めるとともに地域づくりの在り方を考える機会とする。<br>講師及び事業関係者が懇談会をすることで、高齢者の学びや活動及び地域づくり等に関する講座・事業の企画・実施への一助とする。 |

## ○内容

講演会では、関福生先生に「人生100年時代をどう生き抜くか」と題して話をいただいた。その中において、地域住民が幸せを実感できる社会をつくるため、具体的な実践事例を用いて、健康づくり、生きがいづくり、話し相手づくり、居場所づくりを行うことや成熟した大人が次世代を導いていくことが大切であるといった話があった。

懇談会（ワークショップ）では、福富町内の3地区（竹仁、久芳、上戸野）に分かれ、「10年先の自分と地域のために、学びで備えましょう」をテーマに、まず、10年先の自分の幸福度を点数化し、そのための「マイナス」と「プラス」の要因について考えました。その後、様々な課題を解決するにあたり、「自分でできること（自助）」、「みんなで取り組むこと

（共助）」、「行政に任せること（公助）」のいずれでできるかを話し合い模造紙にまとめていった。新型コロナウイルス感染症対策をしっかりとしながら、様々な意見が飛び交った。

最後の発表では、「地域でまずはこれから取り組んでみたいこと」として、「インターネットを活用した、地域オリジナルマップ（人材バンク）づくり」、「健康で元気に賢く長生きできる地域づくり」、「地域の子供たちと大人がともに学び、活動できる地域づくり」等のアイデアが提案された。

当日は、約80名の参加があり、懇談会終了時には、「元気で楽しく生活できるよう健康づくりに努めたい」、「地域の子供たちを含めた活動を進めていくことが大切であり、高齢者の生きがいにもなると感じた」、「地域の学びの場にできる限り協力していきたい」といった声が聞かれた。

## イ 世羅町（小国地区）

### ①プロジェクトの概要

図3は、世羅町の担当者が3年間を見据えて、プロジェクトの内容を企画シートに整理したものである。

図3 プロジェクトの内容を整理した企画シート（世羅町）

世羅町小国地区では、高齢化率が45%を超えており、少子高齢化が著しく進んでいる。また、人口減少と高齢化により、振興区によっては組織の体制整備や活動の維持が困難となっており、現状を踏まえて未来を見据えた地域のビジョンを立てることが急務となっている。

小国地区にはこれまでに立てられた地域づくりビジョンがあったが、策定された経緯や年度等が不明で、住民への共有もできていない状態であった。

そこで、若い世代も含めた多世代の住民が、小国地区の未来を語りながら連帯感を醸成していき、これからの地域づくりについて、講師を招聘して学び、新たな地域づくりビジョンを策定し、ビジョンに沿った地域づくりへの展開へとつなげていくことを目的とし、企画された。

## ②学びの場の実際 1（抜粋）

世羅町では、令和元年度から令和2年度にかけて、複数回のワークショップを計画していたが、コロナ感染症対策等の影響により、集合・対面で開催できたのは2回であった。

表9と表10は、集合・対面で開催した学びの場の概要について示したものである。

表9 世羅町における学びの場の例1

|     |  |
|-----|--|
| 日時  | 令和2年2月2日（日）14:00～16:30                             |
| 場所  | 世羅町小国自治センター  |
| 参加者 | 27名（小国地区住民等）                                       |
| 講師  | 人間科学研究所 所長 志賀 誠治                                   |
| 目的  | 小国地区の未来を創造し、現状を捉える。これからの地域づくり・まちづくりへの参画や協働の在り方を学ぶ。 |

### ○内容

小国自治センター長より、事業の概要について説明を行った後、小国地区振興協議会長より挨拶をいただいた。また、小国地区に古くから伝わる小国小唄を参加者で斉唱した。

ワークショップでは、志賀誠治先生に「小国地区のこれからの地域づくり・まちづくりに向けて」と題して講話をしていただき、その後、グループに分かれて意見交流を行った。講義では、人口減少には自然減と社会減があるが、地域住民の力で社会減を減らしていくことが大切であるという話があった。また、これからの地域づくり・まちづくりは「参画」と「協働」がキーワードとなり、参加者から参画者を増やして地域づくりを進めていくことが必要であると話があった。

資料9 地域課題について話し合う住民の様子



当日は、中学生から高齢者まで多世代の参加があり、「大変有意義な時間であり、楽しく学ぶことができました」「地域をより良くするためにしっかり考えることができました」といった声が多く聞かれた。

## ③学びの場の実際 2（抜粋）

表10 世羅町における学びの場の例2

|     |   |
|-----|---|
| 日時  | 令和2年11月28日（土）14:00～17:00                                    |
| 場所  | 世羅町小国自治センター   |
| 参加者 | 27名（小国地区住民等）  |
| 講師  | 人間科学研究所 所長 志賀 誠治  |
| 目的  | アンケート結果（地域住民対象）をもとに、地域への思いや願いを共有する。地域で取り組んでみたいプロジェクト案を検討する。 |

### ○内容

小国自治センター長より、10月に実施した住民アンケート（小学生以上対象）の結果について説明があった。

ワークショップでは、前回に続いて志賀誠治先生から、人口減少や高齢化が進む世の中であるからこそ、発想の転換をして楽しく地域づくりに取り組んでいくことの大切さ等を話していただいた。

その後、住民アンケートの結果をもとに実際に取り組んでみたいプロジェクト案をグループごとに複数考えた。

さらに、全参加者が実際に関わってみたいプロジェクト案について投票を行い、5つを選定し意見を交流した。

資料10 取り組みたいプロジェクトを話し合う住民の様子



当日は、小学生から高齢者まで多世代の参加があり、「たくさんのアイデアが出て楽しく交流することができました」「小国地区の明るい未来を目指すためにしっかり考えていきたいです」といった声が多く聞かれた。

## ④成果物

図4は、地域住民によるワークショップや小学生以上の全住民を対象としたアンケートを踏まえて検

討した新しい「小国地区地域づくりビジョン」である。

ビジョンにはアンケートをもとに小国地区の未来像を「夢・笑顔ひろがる みんなのふるさと小国」、そのコンセプトを「オール小国であふれる宝物を生かします」と示し、その実現に向けて、「人と人がつながり支え合う地域」「人生100年時代 生涯現役で暮らせる地域」「伝統・学び・遊びから生まれる活気ある地域」「豊かな自然を満喫 清潔で美しい地域」の4つの基本方針が示されており、方針毎に具体的な取組内容が書かれている。

このビジョンは小国自治センターホームページに掲載するとともに、全戸に対して配付した。

今後はこのビジョンに基づいてさらに事業を展開していくこととなる。

図4 完成した「小国地区地域づくりビジョン」



#### IV 事業の検証の視点

##### 1 検証の視点と方法

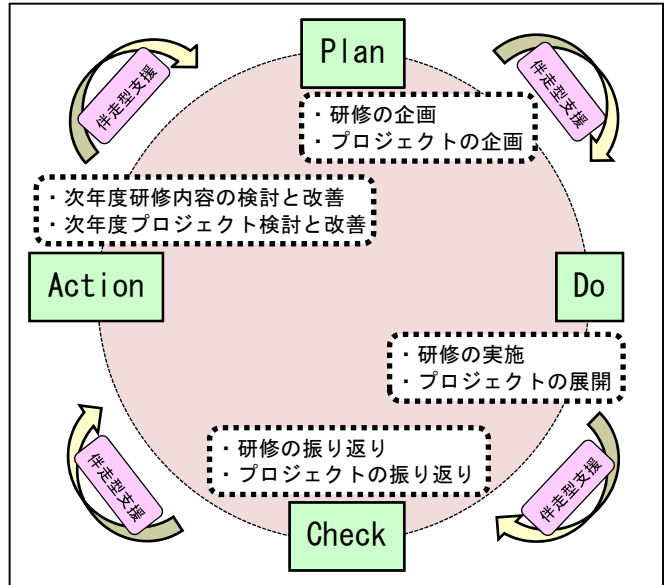
表11は、市町職員等研修とモデル市町支援について、その具体的な検証の方法と視点について示したものである。

表11 検証の方法と視点

| 検証の視点   | 検証の方法                 |
|---|-----------------------|
| ①研修の受講者が学びから始まる地域づくりプロジェクトの意義を理解し、推進のノウハウを身に付けることができたか。 | ○アンケート調査              |
| ②モデル市町が当センターの伴走型支援を受けながら、プロジェクトの推進を行うことができたか。           | ○研修での事例発表資料<br>○成果報告書 |

なお、支援事業における市町職員等研修とモデル市町支援については、図5-1の展開イメージに沿って推進を図ってきた。

図5-1 支援事業の展開イメージ(仮)



#### V 事業の検証

##### 1 市町職員等研修について

###### (1) 受講者に対するアンケート

広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」コーディネーター研修では、身に付けさせたい力を予め受講者に示し、それぞれの段階でその変容についてアンケートによる調査を行った。

表12、表13は、研修を通して身に付けさせたい力について、受講者が研修受講後に回答した振り返りアンケートと、研修受講4か月後に回答したフォローアップアンケートの結果について、示したものである。

なお、試行期であった令和元年度については当該項目のアンケート調査は行っていない。

表12 身に付けさせたい力に関わるアンケートの結果(振り返りアンケート) (%)

| 質問項目                               |    | A    | B    | C    | D |
|------------------------------------|----|------|------|------|---|
| 学びから始まる地域づくりに関わる新しい知識や考え方を得ること     | R3 | 31.6 | 63.2 | 5.3  | 0 |
|                                    | R2 | 20.6 | 79.4 | 0    | 0 |
| 地域の未来を考えながら、地域の現状や課題、資源を分析し、企画すること | R3 | 15.8 | 63.2 | 21.2 | 0 |
|                                    | R2 | 11.8 | 82.4 | 5.9  | 0 |
| 企画したものについて、評価のポイントに基づいて点検や助言をすること  | R3 | 10.5 | 36.8 | 52.6 | 0 |
|                                    | R2 | 3.0  | 75.8 | 21.2 | 0 |

※ A：とても変化した B：少し変化した  
C：あまり変わらない D：全く変わらない

研修受講後は肯定的な評価の割合が大きいものの、その4か月後に調査した結果である表13を見ると、どの項目においても肯定的評価の割合が下がる傾向にあった。

表13 身に付けさせたい力に関わるアンケートの結果（フォローアップアンケート）（%）

| 質問項目                               |    | A    | B    | C    | D   |
|------------------------------------|----|------|------|------|-----|
| 学びから始まる地域づくりに関わる新しい知識や考え方を得ること     | R3 | 13.3 | 66.6 | 20.0 | 0   |
|                                    | R2 | 19.3 | 64.5 | 16.1 | 0   |
| 地域の未来を考えながら、地域の現状や課題、資源を分析し、企画すること | R3 | 6.6  | 66.6 | 26.6 | 0   |
|                                    | R2 | 12.9 | 70.9 | 16.1 | 0   |
| 企画したものについて、評価のポイントに基づいて点検や助言をすること  | R3 | 35.7 | 57.1 | 0    | 0   |
|                                    | R2 | 0    | 58.0 | 38.7 | 3.2 |

※ A：とても変化した B：少し変化した  
C：あまり変わらない D：全く変わらない

身に付けさせたい力のうち、「学びから始まる地域づくり関わる新しい知識や加考え方を得ること」については、地域づくりに学びの要素や仕組みを取り入れていくことの意義やその必要性について、研修を通して理解を深めることができたことと捉えることができる。一方で、時間が経過すると研修直後と比較するとその意識は薄れていくものの、4か月経った後も7割から8割の間でその意識が継続しており、研修を行った成果があったと捉えることができる。

「地域の未来を考えながら、地域の課題、資源を分析すること」については、研修の演習において、地域の課題や資源を踏まえて、今後の3年間を見据えたプロジェクトを検討し、企画シートを活用して立案していった。この力については、研修後4か月経ってもその意識が変化しないと肯定的に捉えている受講者の割合が高いことから、地域の課題や資源を踏まえ、複数年を見据えたプロジェクトの企画や立案の能力が一定程度身に付いていると捉えることができる。

「企画したものについて、評価のポイントに基づいて、点検や助言をすること」については、その年によって、受講者の評価に特徴的な数値を見ることができ、2つの要因があると捉えている。1つ目は、試行期であった1年目は集合・対面形式での研修であったが、2年目からはオンラインによる研修となったことである。2つ目は、試行期である1年目と2年目の研修では受講者一人一人がそれぞれプロジェクトを検討、立案し、相互評価を行った。一方で、3年目の研修では、グループで選定したプロジェクトについて検討をしていき、相互評価を行う形であった。これらのように、研修の実施方法や形態が毎年変わったことから、受講者の評価が各年度毎に

特徴的な数値として現れたと捉えている。

その他、ここ2年間は感染症対策等でプロジェクトを立案したり、実行したりすることが困難な状況であったが、地域づくりに係る新しい知識や考え方を得ることやプロジェクトを立案する際に評価のポイントを意識することについては、研修終了後4か月経っても肯定的評価の割合も高く、一定の研修の効果があつたと捉えることができる。

表14は、広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」コーディネーター研修終了後に、受講者に対して実施した振り返りアンケートの結果について、示したものである。

表14 振り返りアンケートの結果（%）

| 質問項目   |    | A    | B    | C    | D   | 変 |
|--|----|------|------|------|-----|---|
| ① 今回の研修で学んだことは、明日からの仕事に役立つものになりましたか。   | R3 | 57.9 | 42.1 | 0    | 0   | ↑ |
|  | R2 | 29.4 | 61.8 | 8.8  | 0   |   |
|  | R1 | 37.3 | 62.7 | 0    | 0   |   |
| ② 講義「学びから始まる地域づくり」「相互評価のポイント」について、講義の内容は理解できましたか。                                    | R3 | 42.1 | 57.9 | 0    | 0   | ↑ |
|  | R2 | 38.2 | 58.8 | 2.9  | 0   |   |
|  | R1 | 22.9 | 74.7 | 2.4  | 0   |   |
| ③ 演習「企画シートの交流①」「企画シートの交流②」について、企画シート（プロジェクト）について説明したり、相互評価のポイントに沿って助言したりすることができましたか。 | R3 | 21.1 | 36.8 | 36.8 | 5.3 | ↑ |
|  | R2 | 5.9  | 20.6 | 64.7 | 8.8 |   |
|  | R1 | -    | -    | -    | -   |   |
| ④ 発表・講評について、他の企画シート（プロジェクト）の構成や内容は参考になりましたか。   | R3 | 63.2 | 31.6 | 5.3  | 0   | ↑ |
|  | R2 | 46.9 | 50.0 | 3.1  | 0   |   |
|  | R1 | -    | -    | -    | -   |   |
| ⑤ 講義・演習を通して、学びから始まる地域づくりプロジェクトについて、理解が深まりましたか。                                       | R3 | 47.4 | 52.6 | 0    | 0   | ↑ |
|  | R2 | 15.2 | 81.8 | 3.0  | 0   |   |
|  | R1 | -    | -    | -    | -   |   |

※「-」については、設定なし。

※ A：とても B：まあまあ C：あまり D：ほとんど

研修の内容に関わる振り返りアンケートの項目については、毎年項目について見直しを行ったため、年度によっては設定がない設問もあるが、結果を見ると、講義や説明、講評については、肯定的評価が9割を超えており、学びから始まる地域づくりの意義や必要性について、理解ができていると捉えることができる。また、研修で学んだことを日々の業務に生かすことについても同様に肯定的評価が9割を超えている。振り返りアンケートの記述欄には、「地域課題の解決策を検討する際、企画シートに沿って地域の資源やモノ、コト等を整理すればよいことが分かりました」「各地域の実態や実情に沿いながら、様々な地域課題解決のためのアプローチの仕方につ

いて、学ぶことができました」といった意見があった。

一方で、企画シートについて説明したり、相互評価のポイントに沿って助言したりすることについては、「あまりできなかった」「ほとんどできなかった」と回答した受講者が多かった。アンケートの記述欄には、「自分の頭の中に具体的なプロジェクト案がなく、人の案に同調しただけになってしまった」「相互評価を行う場面を複数回経験する等、説明や評価をする側にもスキルが必要だと感じました」といった意見があった。

これは、先に述べた身に付けさせたい力とも関連するが、次の3点が要因として考えられる。1つ目は、他の地域の受講者が提案した企画シートについて、それだけでは地域の実情等が全て分からないため意見が言いにくい状況があることが考えられる。2つ目は、オンライン上でのやり取りになったことや演習の時間が十分に確保できなかったため、評価のポイントに沿ったプロジェクト立案が十分できていないことである。3つ目は、プロジェクト案が実際に活動につながった事例の情報提供が十分にできていないため、評価がしにくいことである。

これらのことから、相互評価のポイントについて理解を深める演習を行う際には、十分な時間を確保した上で、同一の市町や地域でグループを編成するといった工夫をしてきたい。

## 2 モデル市町支援について

モデル市町支援については、令和元年度の試行期より、2年間の支援を行った東広島市と世羅町について、2市町の事例発表資料及び成果報告書より検証する。

各モデル市町においては、全市町的にプロジェクトを広げて事業の展開を図る場合と市町内の中で地域を限定してプロジェクトを展開していくパターンがあり、実情に応じて柔軟に支援を展開してきた。

また、新型コロナウイルス感染症対策等の影響もあり、予定や計画通りの事業の展開ができないことが多々あったが、どの市町においても、状況に併せてプロジェクトの展開を行っていただいた。

東広島市では、高齢者の生きがいの創出や健康づくりとともに、地域づくりに参画する機運を醸成するために、福富地区が中心となってプロジェクトを推進し、その取組を全市的に展開していった。

成果報告書からは、「福富地区をはじめ、各地域の事業推進検討チームのメンバーや受講者が、人生100年時代を生きていることを自覚し、第2、第3の学

習環境づくりやその整備の重要性への関心が高まった」「様々なプロジェクトへの参画者が、個々の生きがいを創出し、より豊かな人生の送ることができるよう、その醸成を図ることができた」といった記述が見られた。

世羅町では、小国自治センターが拠点となり、全住民の意見を反映させた地域づくりビジョンを策定し、ビジョンに基づいた事業を展開することを目指してプロジェクトを推進した。

成果報告書を見ると、「全住民が『地域づくりビジョンを踏まえた地域づくり』の必要性を共有している」「多世代が住みたいと思える小国地区づくりに向けて、事業等をリデザインしたり、新たに企画・運営したりしようとしている」「自治振興区内の連携が図れ、ネットワークが構築された」といった記述が見られた。

一方で、課題としては東広島市と世羅町の双方において、プロジェクトへ参画した地域住民の意識の変容やその後の活動について、十分に追えていない点がある。プロジェクトに参画したことによって、住民の意識がどう変わり、どのような行動につながったのかを継続的に調査して、その波及効果を検証していく必要がある。

## VI 今後に向けて

### 1 市町職員等研修について

市町職員研修については、研修会の名称を「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』支援事業推進研修」として、次年度以降も引き続き実施していく。

研修会の第1回については、身に付けさせたい力のうち、「学びから始まる地域づくりに関わる新しい知識や考え方を得ること」に重点を置き、全県に対して受講者を募り、広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業の概要や趣旨、理論等を幅広く学べる構成にする。

第2回以降については、次年度以降のモデル市町として検討していただいている市町に会場を設けて、集合・対面によりプロジェクトの企画立案を行う演習を実施する。なお、第2回以降については、身に付けさせたい力のうち、「地域の未来を考えながら、地域の現状や課題、資源を分析し、企画すること」、「企画したものについて、評価のポイントに基づいて点検や助言をすること」に重点を置く。

モデル市町の要望等に応じて、当センターの社会教育主事等が出向き、モデル市町支援と併せて指導や助言をする機会を複数回設ける予定である。

## 2 モデル市町支援について

モデル市町については、プロジェクトを実行する前の段階の支援に重点を置き、支援の充実を図っていく。また、より市町に寄り添いながら伴走型支援を充実させるため、当センターの社会教育主事等が訪問し助言をする機会を多く設け、より実効性、実現性のあるプロジェクトの立案につなげていきたい。

また、プロジェクトへ参画した人への追跡調査を行う等、その波及効果についても検証していきたい。

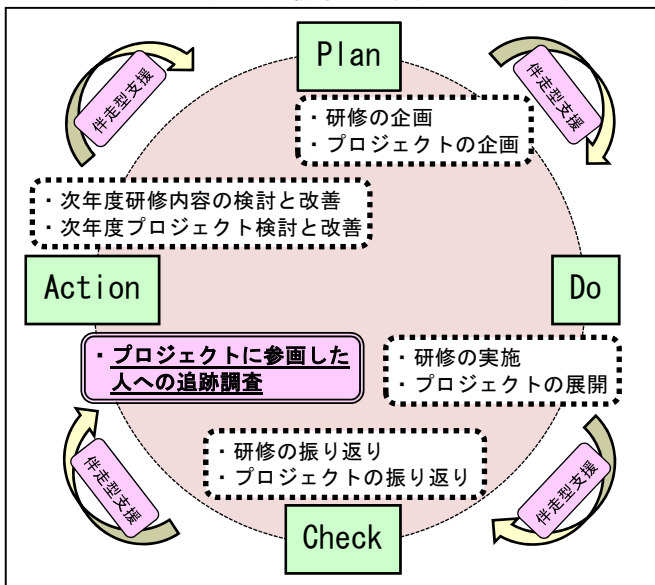
モデル市町におけるアプローチAとアプローチBのそれぞれのプロジェクトの展開については、モデル市町として取り組んだ当該年度だけでなく、その後の展開についても助言をしたり、必要に応じてアンケート調査等を行ったりして、市町全体への波及効果についても十分に検証していきたい。

さらに、アプローチBに取り組んだモデル市町がその後、アプローチAを経て地域づくりへと展開していくプロジェクトの展開の様子は、他市町の参考となる先行モデルとなると考える。

このように、モデル市町として取り組んだ後の市町がその後どのように変化したのか、支援事業全体がどのような波及効果をもたらしたのかを検証していきたいと考えている。

## 3 検証方法の見直しについて

図5-2 「プロジェクトに参画した人への追跡調査」を踏まえた今後の支援事業の展開イメージ（仮）



これまでは、モデル市町支援において、プロジェクトへの参画者や拠点となる公民館等の職員等に対して、アンケートは取っていたものの、その分析が十分にできていなかった。

また、アンケート項目についても、モデル市町によってその項目が違っており、基準を揃えた検証まで至っていなかった。それらを踏まえ、モデル市町支援をはじめ、支援事業全体をさらに発展させていくために、プロジェクトに参加した住民に対して、共通のアンケートを実施したり、ヒアリング等の追跡調査をしたりすることで、地域づくりにどのように貢献しているのかを見取っていく。

## おわりに

ここ2年間は、感染症対策への対応や対策に追われ、県内市町の各社会教育施設等においては、多くの事業が中止や延期となる状況にあった。そういった中でも、たくさんの方が研修を受講していただいたことは、学びから始まる地域づくりへの興味・関心の向上とともに、その意義や必要性について理解していただいていると捉えている。

この3年間でモデル市町として取り組んでいただいた市町においては、感染症対策で困難な状況がある中、プロジェクトの検討や立案、そして実施へと御尽力いただき、一定の成果を得たことは、大きな意義があり、関係者の方には心より感謝申し上げます。

主要引用、参考文献

広島県立生涯学習センター『広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」コーディネーターハンドブック』、2020年（第2版）

山川肖美「学びから始まる持続可能な地域づくりに関する一考察—学習の社会的成果としてのシビック・エンゲージメントを鍵概念として」日本生涯学習学会『日本生涯教育学会年報42』2021、pp.15-22。